

令和8年度 教育指導の重点及び学校経営計画

| | | | |
|------|---|-----|---------|
| 学校番号 | 2 | 学校名 | 岐阜北高等学校 |
|------|---|-----|---------|

| | | | |
|------------------------|---|--|--|
| 社会的役割等 (スクール・ミッション) | 高い進路目標を掲げ、幅広い知識と教養を培う高校として 企業や大学等とハイレベルに連携・協働した探究的な学びを通して 判断力や行動力、広い視野を身に付けた次世代の社会を担うグローバル・リーダーの育成を目指す学校 | | |
| 学校教育目標 (教育方針) | (1)知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する (2)確かな学力を身に付け、創造的思考力と主体的実行力とを併せ持つ生徒を育成する (3)高い志とグローバルな視野を持ち、自身の夢の実現と地域社会の持続可能な発展に貢献できるたくましい実践力を備えた人間性豊かな生徒を育成する (4)倫理観や規範意識に基づく社会性を育むとともに、他者を思いやる心に富む生徒を育成する (5)健康維持や体力づくりを推進し、自他の生命を尊重できる生徒を育成する | | |
| 3つの方針 (スクール・ポリシー) | どんな生徒を 育てたいか 【GP】 | 「荒野をひらく探究人」 ・自己の哲学の礎を築き、粘り強く物事に取り組める生徒 【自分を啓く】 ・知に貪欲になり、主体的・創造的に探究できる生徒 【自ら拓く】 ・多様な他者と協働し、課題解決できる生徒 【ともに拓く】 | |
| | 生徒をどう 育てるか 【CP】 | 「社会に開かれた教育課程」による「探究人」の育成 ・必修科目及び「思考力」「判断力」「表現力」を重視する共通テスト対象科目を学力向上のコア科目(必須科目)として発達段階に応じて配置 ・生徒の進路志望や興味関心に対応し、学校設定科目を含む多様な選択科目の充実 ・「総合的な探究の時間」等を通して、地域の課題解決など、自らテーマを設定して探究する学びの推進 ・各教科等においては、実社会との接点や教科横断的な学びを重視した「対話的」で「探究的」な「深い学び」の実践 ・生徒1端末等のICT環境や、県の指定事業等を利用し、地域や外部機関との積極的な連携と協働の実施 | |
| | どんな生徒を 待っているか 【AP】 | ・北高のグラデュエーション・ポリシー（「荒野をひらく探究人」）を理解し、高い志とグローバルな視野を持って学ぼうとする意欲のある生徒 | |
| 学校の抱える課題 | <ul style="list-style-type: none"> 外部組織との連携および内部組織におけるそれぞれの教育活動の連携の強化 個に応じた丁寧な進学指導及び早い段階から進路意識を高める指導による、生徒の希望をかなえる進路指導の実践 県事業「地域課題探究型学習推進事業（理数教育型）」の有効活用と、外部連携の推進による、ハイレベルかつ主体的な探究活動の実践 品格や社会性、豊かな想像力や主体性を重んじた学校生活および学校改革の推進 教師の指導力向上と心身の健康のための研修ならびに働き方改革の一層の推進 | | |
| 教育指導の重点 | 領域・分野 | 今年度の具体的な重点目標 | |
| | 学校経営 | ①各分掌の取り組みを着実に推進するとともに、外部組織との連携および内部組織におけるそれぞれの教育活動の連携を強化する ②校内外の研修等により教員の指導力の向上に努めるとともに、働き方改革を推進する | |
| | 学習指導 | ①基礎基本を確実に習得させるとともに、思考力、判断力、表現力を伸長し、「確かな学力」と「社会を生き抜く力」を身に付けさせる教科指導の充実を図る ②学習指導における教科・科目間連携および探究型の授業を推進し、生徒の知的好奇心を喚起し、生徒自らが主体的に取り組む、個に応じた教科指導に努める | |
| | 進路指導 | ①生徒が自己の生き方を主体的に考え、探究し、高い目標を実現しようとする意欲・態度や能力を育成する ②三年間を見通し、個々の生徒に応じたキャリア教育を推進する | |
| | 生徒指導 | ①教育目標、スクールポリシー実現のための積極的「生徒指導と教育相談」を充実させる ②生徒と教職員、保護者と教職員、教職員同士の対話、コミュニケーションを大切にする | |
| 教育職員の業務量管理・健康確保措置の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 全業務を見直しスリム化を図るとともに、二人担任制を導入し業務の平準化を図り、働き方改革をさらに推進する AIやICTを適切に活用し業務効率化を推進し、「早く帰る日」の徹底に向けて業務マネジメントに尽力し、心身の健康を万全に保つ | | |

| 年度目標 | | | | 年度末評価(自己評価) | | | |
|------|---|-------------------------|--|-------------------------|------------------|-------|------------------------|
| 領域分野 | 3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策 | 県教育振興 基本計画での 位置付け | 達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標 | 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等 | 評価 A. B. C. D | 成果と課題 | 総合 評価 A. B. C. D |
| 学校経営 | 職員が相互に学びあう姿勢で業務にあたり、積極的な研修等への参加によりスキルアップを図る | 施策IV-26 | ①生徒・保護者対象アンケートの分析 ②校外研修参加実績 ③教員対象のアンケートの分析 ④学校活性化コアチームの開催回数及び成果の分析 | | | | |
| | 生徒一人一人のキャリアを見据え、学外の専門機関と連携した探究的な学びの実現を目指す | 施策II-13 | | | | | |
| | 生徒と教職員が対話や協働を通じて新しい解や納得解を生み出すことで、学校活性化に繋げる | 施策IV-20 | | | | | |
| | 学校行事を活性化し、生徒が全校や学年等の集団で主体的に協働し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深める | 施策I-1 | | | | | |
| 学習指導 | 少人数授業やIT、基礎学力講座や個別指導等により、基礎・基本を習得させるとともに、問題解決型の授業を推進し、思考力・判断力・表現力を伸長する | 施策II-8 | ①生徒・保護者対象アンケートの分析 ②考査等の分析 ③教師間の相互授業参観・意見交流 | | | | |
| | タブレットなどICT機器の活用や教科横断的な学習を推進し、生徒の主体性を育成する | 施策II-9 | | | | | |
| | 担任、学年、教科、分掌、部活動、保護者との連携を密に図り、個に応じた教科指導を実践する | 施策II-8 | | | | | |
| | 学校行事や授業参観の機会を積極的に設け、開かれた学校づくりに取り組む | 施策I-7 | | | | | |
| 進路指導 | 生徒個々の能力・適性を十分把握し、三年間を見通したキャリア教育を行う | 施策II-13 | ①生徒・保護者対象アンケートの分析 ②ポートフォリオ等の活用回数 ③校内模試・実力テスト・外部模試の結果分析 ④企画終了後の総括・分析、進路実績 | | | | |
| | 生徒が自らの生き方を探究し、高い目標を実現しようとする意欲・態度や能力を育成する | 施策II-11 | | | | | |
| | 各年次の生徒に応じた進路情報を、正確かつ迅速に提供し、生徒が進路を探究する機会の充実を図る | 施策II-13 | | | | | |
| | 保護者や地域への積極的な情報発信、情報共有に努める | 施策IV-20 | | | | | |
| 生徒指導 | お互いをかけがえのない存在として認め、尊重し、命の大切さを実感できる取り組みを充実する | 施策I-2 | ①生徒・保護者対象アンケートの分析 ②研修・講話・統一LHRの実施回数、関係機関の刊行物の活用回数・発行回数 ③交通事故・交通違反の件数、街頭指導の回数 ④いじめの認知件数と分析 ⑤教育相談週間実施回数、スクールカウンセラー等活用事業の活用回数と実施率、心のアンケート実施回数と分析 ⑥生徒心得やガイドライン等の見直し状況 | | | | |
| | いじめを許さない学校づくり、学級づくりを進め、生徒一人一人を大切にする | 施策I-3 | | | | | |
| | 社会通念上の必要性、人格的自律、法的責任を必要最低限の基準とし、自ら判断し、場にふさわしい行動がとれる生徒を育成する | 施策I-1 | | | | | |
| | 教育相談活動を充実させ、個々の生徒に対して適時・適切で具体的な支援を行い、必要に応じて外部機関とも連携する | 施策I-3 | | | | | |
| | 生徒心得等は、学校ホームページに掲載し教職員や生徒・保護者、関係機関等に周知を図るとともに、見直し・改善を図る | 施策I-7 | | | | | |

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和9年 月 日

学校関係者評価

実施日：令和9年 月 日

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|